

<特集「他動性」>

## パピアメント語における他動性 Transitivity in Papiamentu

パトリシオ・バレラ・アルミロン  
Patricio Varela Almiron

東京外国語大学大学院総合国際学研究科  
Graduate School of Global Studies, Tokyo University of Foreign Studies

**要旨:** 本稿の目的は、特集「他動性」(『語学研究所論集』第19号, 東京外国語大学)における20個のアンケート項目に対するパピアメント語のデータを与えることである。

**Abstract:** This report aims to provide the Papiamentu data which answers the 20 survey questions for the special volume of the *Journal of the Institute of Language Research* 19, which focuses on the cross-linguistic study of ‘transitivity’.

**キーワード:** パピアメント語, 他動性, クレオール言語, 動詞連続, 前置詞句

**Keywords:** Papiamentu, transitivity, creole, serial verbs construction, prepositional phrase

### 1. はじめに

パピアメント語は主にアルバ島, ボネール島, キュラソー島(3つの島の頭文字を取り「ABC諸島」とも呼ばれる)で話されているクレオール言語である。基本語順はSVOであり, 修飾語と被修飾語の語順は品詞(場合には語彙)によって異なる。本稿における表記はキュラソー島の正書法を採用している。

本稿の作成にあたり, J.C.氏(キュラソー島出身, 1990年生まれ, 男性)の協力をいただいた。

### 2. 言語データ

(1a) 彼はそのハエを殺した。

El a **mata** e muskita.  
3SG PFV kill ART.DEF fly

(1b) 彼はその箱を壊した。

El a **kibra** e kaha.  
3SG PFV break ART.DEF box



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

(1c) 彼はそのスープを温めた.

El a **keinta** e sopi.  
3SG PFV heat ART.DEF soup

(1a)-(1c) のように「直接影響・変化」を与える動作を表す動詞の対象は動詞の直後に直接目的語として現れる.

(1d) 彼はそのハエを殺したが、死ななかった.

El a **purba mata** e muskita pero no a muri.  
3SG PFV try kill ART.DEF fly but NEG PFV die

(1d) は **purba** 「~してみる」を用いなければ非文となる. つまり, パピアメント語においては **mata** 「殺す」が結果を含意するため, その結果を否定することができない.

(2a) 彼はそのボールを蹴った.

El a **skòp** e bala.  
3SG PFV kick ART.DEF ball

(2b) 彼女は彼の足を蹴った.

El a **skòp** su pia.  
3SG PFV kill 3SG.POSS leg

(2a)-(2b) の動詞は「直接影響・変化」と同じく, 対象が動詞に後続する目的語として現れる.

(2c) 彼はその人にぶつかった (故意に).

El a **kana dal den** e hende ei.  
3SG PFV walk hit in ART.DEF people there

(2d) 彼はその人とぶつかった (うっかり).

El a **kana dal den** e hende ei sin sa.  
3SG PFV walk hit in ART.DEF people there without know

(2c)-(2d) はどれも動詞連続 **kana dal** 「歩く・打つ」を用い, 前置詞 **den** で対象を示す. Velasquez et al. (2016: 6-7) によると, **den** は位置関係および時間関係を表すことができる. J.C.氏によると, (2c) は基本的に「故意に」行われたと考えられるが, 文脈によっては「うっかり」行われたと解釈できるかもしれないという. (2d) では副詞表現を用い, 動作が「うっかり」行われたことを明示している.

(3a) あそこに人が数人見える.

Mi ta **mira tin** hende ei banda.  
1SG IPFV see have people there side

(3b) 私はその家を見た.

Mi a **wak** e kas.  
1SG PFV watch ART.DEF house

(3a) と (3b) では語彙の違いが見られる. (3a) の動詞は *mira* であるのに対し, (3b) の動詞は *wak* である. これらの動詞の違いに意志性の違いがある. J.C.氏によると, *wak* は「意図して観る」という意味を表すのに対し, *mira* は「意図していなくても目に入る」という意味を表す. さらに, (3a) の場合は存在を表す動詞 *tin* が用いられている. これは動作の対象が不定であることに起因しているであろう.

(3c) 誰かが叫んだのが聞こえた.

Mi a **tende** un hende grita.  
1SG PFV hear ART.INDF people scream

(3d) 彼はその音を聞いた.

El a **skucha** e sonido ei.  
3SG PFV listen ART.DEF sound there

(3c) と (3d) では語彙の違いが見られる. (3a) の動詞は *tende* であるのに対し, (3b) の動詞は *skucha* である. (3c) の場合は「人が叫ぶ」という表現が動詞 *tende* の目的語になっている. J.C.氏によると, *tende* は「意図して聴く」という意味を表すのに対し, *skucha* は「意図していなくても耳に入る」という意味を表す.

(4a) 彼は (なくした) カギを見つけた.

El a **haña** e yabi.  
3SG PFV find ART.DEF key

(4b) 彼は椅子を作った.

El a **traha** un stul.  
3SG PFV make ART.DEF chair

(4a)-(4b) の動詞は「直接影響・変化」と同じく, 対象が動詞に後続する目的語として現れる.

(5a) 彼はバスを待っている.

E ta **warda** e bús.  
ART.DEF IPFV wait ART.DEF bus

(5b) 私は彼が来るのを待っていた.

Mi tabata **warda-ndo (riba dje)** pa e yega.  
1SG IPFV.PST wait-GER on 3SG.OBL for 3SG arrive

(5c) 彼は財布を探している。

E ta buska su pòtmòni.  
3SG IPFV seach 3SG.POSS wallet

(5a) と (5c) の動詞は「直接影響・変化」と同じく、対象が動詞に後続する目的語として現れる。それに対し、(5b) では「彼が来る」ということが補文標識 *pa* に導入されている。J.C.氏によると、「彼を待っている」ことを強調したい場合は *riba dje* という表現を用いる。*riba* は、位置関係および様態関係を表す前置詞である (Velasquez et al. 2016: 21-22)。

(6a) 彼はいろんなことをよく知っている。

E sa hopi kos hopi bon.  
3SG know many thing many good

(6b) 私はあの人を知っている。

Mi konosé e hende ei.  
1SG know ART.DEF people there

(6c) 彼はロシア語ができる。

E sa e idioma ruso.  
3SG know ART.DEF language Russian

(6c') E por papia ruso.

3SG can speak Russian

(6a)-(6c) では状態動詞 *konosé* 「(人) 知っている」と *sa* 「(こと) 知っている」が用いられる。対象となるものは動詞の直後の目的語として現れている。(6c) に関してはほかに (6c') のように表されうる。この場合は補助動詞の *por* 「できる」を用いているため *papia* 「話す」などの語彙動詞が要求される。J.C.氏によると、(6c) で *sa* が用いられているため、*idioma* 「言語」という語を用いないと解釈できないのに対し、(6c') では *papia* 「話す」という動詞が用いられているため、*ruso* 「ロシアの (もの・人)」だけでも「ロシア語」を指していると解釈できる。

(7a) あなたはきのう私が言ったことを覚えていますか？

Bo ta kòrda kiko mi a bisa=bu ayera?  
2SG IPFV remember what 1SG PFV tell=2SG yesterday

(7b) 私は彼の電話番号を忘れてしまった。

Mi a lubida su number.  
1SG PFV forget 3SG.POSS number

(7a) では、目的語となる節の頭に疑問詞 *kiko* が来ている。この節の語順は疑問詞疑問文の基本的な語順と同じである。

(8a) 母は子供たちを深く愛していた.

E mama **stima** su yu=nan profundamente.  
ART.DEF mother love 3SG.POSS child=PL deeply

(8b) 私はバナナが好きだ.

Mi **gusta** banana.  
1SG like banana

(8c) 私はあの人が嫌いだ.

Mi **odia** e persona ei.  
1SG hate ART.DEF person there

(8c') Mi **tin rabia** riba dje.

1SG have fury on 3SG.OBL

(8a)-(8c) はどれも状態動詞を用い、それらの対象は動詞に後続する目的語として現れている。(8b) の *gusta* に名詞 *banana* が後続しているため他動詞としてしか解釈できず、*mi* が動詞に先行する位置にあらわれているため主語としてしか解釈できない。屈折が比較的乏しく、主題化を除きパピアメント語の語順がかなり固定されているため、文法役割が統語環境しかから判断できないことが多い。J.C.氏によると、(8c) は翻訳として可能であるが、(8c') の表現のほうが自然であるという。(8c') では *tin rabia* 「怒りをもつ」という表現が用いられ、対象は前置詞 *riba* によって導入されている。

(9a) 私は靴が欲しい.

Mi **ke** sapatu.  
1SG want shoes

(9b) 今、彼にはお金が要る.

Awor e **tin mester di** sèn.  
now 3SG have need of money

(9a) では対象が動詞に後続する目的語として現れている。*ke* 「欲しい」は語彙動詞としても補助動詞としても用いられうる。補助動詞として用いられる場合は、語彙動詞に先行し「～たい」のように願望を表す。(9b) の *mester* は語彙動詞として用いられないため、名詞として用いられ、対象は所有関係で表されている<sup>1</sup>。*mester* にはほかに補助動詞機能があり、その場合は後続する語彙動詞を要求する。

(10a) (私の) 母は (私の) 弟がうそをついたのに怒っている.

Mi mama ta **rabia ku** mi ruman pasombra el a gaña.  
1SG mother IPFV anger with 1SG sibling because 3SG PFV cheat

<sup>1</sup> *di* には所有のほかにも前置詞用法もある (Velasquez et al. 2016: 21-22).

(10b) 彼は犬が怖い.

E **tin miedu di** kachó.  
3SG have fear of dog

(10a) の場合は、怒られる人物と理由が別々で示されている。怒られる人物は前置詞 **ku**<sup>2</sup>によって導入されるのに対し、理由が従属節で示される。(10b) では **tin miedu**「恐怖をもつ」という表現が用いられ、恐怖を起こすもの (**kachó**「犬」) は所有関係で表される。

(11a) 彼は父親に似ている.

E **parse** su tata.  
3SG look\_like 3SG.POSS father

(11a') E **ta meskos ku** su tata.

3SG COP same that 3SG.POSS father

(11b) 海水は塩分を含んでいる.

Awa di laman **tin** salu (**den dje**).  
water of sea have salt in 3SG.OBL

(11a) では状態動詞が用いられ、似ている人物が動詞の直後の位置に現れている。J.C.氏によると、**meskos**「同じ」を用いた (11a') という表現も可能である。後者の場合は似ている人物が前置詞 **ku**によって導入されている。この表現は (11a) とは異なり、基本的に「性格が似ている」という意味合いを持つ。(11b) では **tin**「もつ」の直後の位置に含まれる対象がくる。J.C.氏によると、「含む」という用語により近い意味を表すのに **den dje**「その中に」を加えることができる。

(12a) 私の弟は医者だ.

Mi ruman **ta** (un) dòkter.  
1SG sibling COP ART.INDF doctor

(12b) 私の弟は医者になった.

Mi ruman a **bira** dòkter.  
1SG sibling PFV become doctor

(12a) ではコピュラ動詞の **ta** が用いられ、後続する名詞は不定冠詞を伴っても伴わなくてもよい。(12b) では **bira**「なる」が用いられ、後続する名詞は不定冠詞なしで用いられる。

(13a) 彼は車の運転ができる.

E **por kore** outo.  
3SG can run car

---

<sup>2</sup> **ku** は「同伴」、「特徴」、「様態」、「状況」、「手段」などの意味を表す (Velasquez et al. 2016: 4-6).

(13b) 彼は泳げる.

E **por landa**.  
3SG can swim

(13a)-(13b) ではどれも補助動詞 **por** 「できる」が用いられ、語彙的な意味を担う動詞句がこれに後続する.

(14a) 彼は話をするのが上手だ.

E **por papia bon**.  
3SG can speak good

(14b) 彼は走るのが苦手だ.

E **no por kore bon**.  
3SG NEG can run good

(14b') E **ta kore malu**.

3SG IPFV run bad

(14a)-(14b) でも補助動詞 **por** 「できる」が用いられ、それに先行する否定小詞 **no** の有無と語彙動詞の後続する副詞 **bon** とによって「上手・苦手」という意味が表される. J.C.氏によると, (14b') のように、語彙動詞のみを用い、副詞によって「上手・苦手」を表すことも可能であるという.

(15a) 彼は学校に着いた.

El a **yega skol**.  
3SG PFV arrive school

(15b) 彼は道を渡った／横切った.

El a **kruza kaya**.  
3SG PFV cross road

(15c) 彼はこの道を通った.

El a **pasa den e kaya aki**.  
3SG PFV pass in ART.DEF street here

(15a)-(15b) では到着点・通過点が動詞の直後に現れる. (15c) では通過点が前置詞 **den** によって導入される.

(16a) 彼はお腹を空かしている.

E **tin hamber**.  
3SG have hunger

(16a') E ta **sinti hamber**.  
3SG IPFV feel hunger

(16b) 彼は喉が渴いている.  
E **tin set**.  
3SG have thirst

(16b') E ta **sinti set**.  
3SG IPFV feel thirst

(16a)-(16b) では「お腹がすいている状態」「のどが渴いている状態」を表す名詞が用いられ、**tin**「もつ」の後に現れている。J.C.氏によると、**tin**「もつ」ほど頻繁に用いられないが、代わりに **sinti**「感じる」という動詞を用いることもできるという。

(17a) 私は寒い.  
Mi ta **sinti friu**.  
1SG IPFV feel cold

(17a') Mi **tin friu**.  
1SG have cold

(17b) 今日は寒い.  
Awe ta **friu**.  
today COP cold

(17b') Awe ta **hasi friu**.  
today IPFV do cold

(17a) と (17a') では1人称代名詞 **mi** が用いられ、(16a)-(16b)、(16a')-(16b') のように、状態が **tin**「もつ」と **sinti**「感じる」に後続する名詞によって表されている。(17b) コピュラ **ta** を用いた文になっており、主語の位置に **awe**「今日」が用いられている。(17b') のように **hasi**「する」も用いることができ、J.C.氏によると「話者が寒さを感じている」という意味合いが含まれるという。

(18a) 私は彼を手伝った／助けた.  
Mi a **yud=e**.  
1SG PFV help=3SG

(18a') Mi a **salb=e**.  
1SG PFV save=3SG



(18b) 私は彼がそれを運ぶのを手伝った.

Mi a yud=e karg=e.  
 1SG PFV help=3SG carry=3SG

(18a) と (18a') では手伝ってもらう人物は動詞の直後に現れている。目的語となる代名詞は基本的に前接語として動詞につく。(18b) では1つ目の e「彼」が yuda「手伝う」の目的語となり, 2つ目の e「それ」は karga「運ぶ」の目的語となっている。1つ目の e「彼」は karga「運ぶ」の主語という機能も有していると考えられる。

(19a) 私はその理由を彼に聞いた.

Mi a pidi=e e motibu.  
 1SG PFV ask=3SG ART.DEF reason

(19b) 私はそのことを彼に話した.

Mi a papia kun=e tokante di dje.  
 1SG PFV speak with=3SG about of 3SG.OBL

パピアメント語の目的語は [動詞 間接目的語 直接目的語] という語順になっている (Kouwenberg and Murray 1994: 35)。そのため, (19a) では e「彼」が動詞の直後に現れ, e motibu「その理由」がそれに後続している。(19b) では e「彼」が前置詞 ku によって導入されており, dje「そのこと」は前置詞 tokante と所有関係を表す di によって導入されている。

(20a) 私は彼と会った.

Mi a topa kun=e.  
 1SG PFV meet with=3SG

(20a) では e「彼」が前置詞 ku によって導入されている。J.C.氏によると, 「意図して会った」場合にも, 「偶然に会った」場合にも用いられうるという。

#### 略号一覧

1, 2, 3	1, 2, 3 人称	NEG	否定
ART	冠詞	OBL	斜格
COP	コピュラ	PFV	完了
DEF	定	PL	複数
GER	動名詞	POSS	所有
INDF	不定	SG	単数
IPFV	未完了		

#### 参考文献

Kouwenberg, Silvia and Eric Murray. 1994. *Papiamentu (Languages of the world/Materials 68)*. München: Lincom Europa.

Velasquez, Pedro, Etley Lasten, Juan Maduro, Magriet Pourrier, Filomena Schwengle and Ramon Todd Dandaré. 2016. *Preposicion y Interheccion di Papiamento*. Aruba: Proyecto Idioma den Enseñansa.

執筆者連絡先 : varela.almiron.patricio.o0@tufs.ac.jp

原稿受理 : 2021 年 1 月 13 日